

# 高槻名誉市民を

# 16号

## 語り継ぐ会会報

平成27年8月1日

極暑の候、時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。日頃は当会の活動に大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

4月13日より開始した「名誉市民を考える会 磯村彌右衛門編」も、6月22日の講演をもって好評裏に終わることが出来ました。これも皆様のご協力が有ればこそ。熱く感謝、御礼申し上げます。

今号から宇津木先生が語られた「磯村彌右衛門」の纏めを掲載させていただきます。紙面の関係で講義内容全てをお伝えできませんが、少しでも「磯村彌右衛門」の人柄を感じて頂ければ幸いです。



高槻市マスコットキャラクター『はにたん』

### 【磯村彌右衛門第一回講演】

第一回目の講演は、「磯村翁の生い立ち」でした。

今回の講演内容では「磯村家の先祖は何時頃から高槻に住んでいたのか」、「なぜ豪農であったのか」、「その政治姿勢はどの様なものであったか」などを興味深く語って頂きました。

戦国時代、織田信長が足利義昭を盛り立て入京してきました。その時、京都を支配していた三好氏が居城としていたのが芥川城で、信長は芥川城を攻め三好氏を追い出しました。三好氏を追放した信長は、これからは山城ではなく平城の時代であると、高槻城を和田惟政に預けました。その家臣としてやってきたのが磯村翁の先祖で、450年程前の事です。その後高山右近の高槻城入城により高槻を離れましたが、右近失脚後高槻に戻りました。その時、武士を辞め農業に変わられたと思われます。

磯村家を中心とする一族は日蓮宗の信仰でのつながりを活用し、西天川村の有力農民と発展していったと推測されます。明和元年(1764年)の所持高は60余石でしたが、手作地は11石を過ぎず、過半の土地は41人の農民に小作をさせていました。明治維新時、磯村家は大冠地区を中心に高槻で一番の土地持ちとなっていました。

武士中心の時代は権力闘争による土地の拡大があったのですが、安定期になると土地は経済的な価値で所有者が決まっていきました。磯村翁の先祖も、土地を商業利貸資本として機能させ、次第に土地集中をなし、大地主となっていたのです。

磯村翁の政治姿勢は、常に中央の政治を見守り、中央政界の力を利用しながら自らは地方政治に主力を置くと言うものでした。政治家への切っ掛けとなった淀川治水対策には特に力を注がれ、政治家を辞めた後も、74歳迄水防事務組合の議員を務められました。中央政界と関わりは、植場平への支援から始まり、植場平亡き後は勝田永吉を衆議院に推したり、戦後は大川光三氏、ついで高槻名誉市民である高碓達之助氏を応援されました。

### 【名誉市民を考える会－高碓達之助編】

7月13日特別講演として、東洋製罐グループホールディングス(株)の中井社長様に「高碓達之助がめざしたもの」と題してお話して頂きました。又7月27日には第二回講演で宇津木先生に青年期の高碓達之助を語って頂きました。企業の後継者から見た高碓達之助、郷土史家から見た高碓達之助、内容は重なるものの、視点の違いから高碓達之助の身近な像が浮き上がって来て、興味深い講演でした。第一回講演記録はダイジェスト版にしてブログで公開中です。第二回講演も近々中に公開予定です。



7/13 東洋製罐グループ HD(株)  
中井社長の講演



7/27 宇津木先生の  
第二回講演



### 【名言集】

創作について

「作品の思い出としては陸放翁詩の四曲屏風(1952年)です。私の最も一作に沢山書いた作品でして、二ヶ月ほどで3000枚の紙を使いました」

(高槻名誉市民 村上三島談)

発行：高槻名誉市民を語り継ぐ会  
ブログ  
<http://blog.livedoor.jp/takatsukimeiy05/>  
FB  
<https://www.facebook.com/groups/167866516706202/>

高碓達之助編は残り4回です。是非ご参加をお待ちしております。  
8/10・8/24・9/14・9/28 (月曜日)